

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

A. コースワークの充実・強化

①人材養成目的に沿った科目構成の整理

●広島大学理学研究科地球惑星システム学専攻

「世界レベルのジオエキスパートの養成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

博士課程前期学生を対象とした6つのコアコース(必修科目)ならびに8つのアドバンスコース(選択科目)からなる授業科目を実施した。さらに外国人特任教員、外国人客員教員による英語の授業科目を実施し、国際化教育の充実を図った。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

本事業実施体制を強化するために、本学文学研究科、総合科学研究科、生物圏科学研究科より各1名の教員が学内連携のために併任教員として教育組織に加わえた。さらに独立行政法人海洋研究開発機構高知コア研究所の3名が本学理学研究科理学融合教育研究センター連携部門の客員教員として本事業に加わり、教育を分担するという学内外の教育連携体制を整備した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

学内外の連携により教育・研究基盤が整備され、幅広い教育カリキュラムの構築と最先端研究体制の強化を行うことができた。従来の授業科目すべてを見直したうえでカリキュラムの整備・再構築を行い、基礎から専門的内容までを段階的に網羅したコアコース、アドバンスコースを設定し、さらに国際化教育のための授業、教育者・研究者養成のためのプロジェクト演習を盛り込み、エキスパート養成のためのカリキュラムを体系化することができた。毎年度末に実施している教育アンケートの結果から判断すれば大学院生の研究意欲の向上に十分につながっていると考えられる。

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

B. 円滑な学位授与の促進

②厳格な成績基準と評価基準の設定や学位授与プロセスの明確化

●広島大学理学研究科地球惑星システム学専攻

「世界レベルのジオエキスパートの養成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

厳格な学位審査体制構築の一環として、博士課程前期1年生、後期3年生を対象に、各々の研究中間発表ならびに口頭試問に基づく公開中間審査実施体制（ミッドターム審査）を構築した。これらの中間審査に関するプロセスを明確化し、「ミッドターム演習」として必修授業科目に位置付け、単位化した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

特に博士課程前期学生においては1年次の2月から2年次の6月ごろまで就職活動時期となるため、ミッドターム審査会に至るまでのスケジューリングが非常に困難である。民間企業等が休みである土日や4月下旬～5月上旬のゴールデンウィークの間に実施するなど毎年工夫をしている。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

ミッドターム審査を実施したことにより、各々の研究の位置づけが明確になり、学位取得に至るまでの補足事項・問題点に対する解決に至るまでの計画が立てやすくなったと思われる。年度末に実施している大学院生へのアンケートによれば、中間時点において現在不足しているものは何か、今後何を充実させていけばよいのかを明瞭に認識することができるのでよいシステムであるとの評価を得ている。